

の一部としてHPや印刷物等にて公表する可能性があります。内容の記載にあたっては、プライバシーへの配慮や個人情報の保護などの観点に鑑み、公開可能な内容としてください。また、成果報告の方法によっては、事務局にて内容を一部編集することがあります。

2013.12.6改訂版

「国立台湾大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部・2年 (藤原 優)

・学習成果

クラスは4つのレベルに分けられており、オリエンテーションの日に現地で受けたプレースメントテストによってクラスが振り分けられる。初學者用のクラスから会話は母国語レベル（読み書きを学びに来ている人たち）という人がいるクラスまで用意されている。プレースメントテストはリーディング・ライティングのみならず、スピーキングのテストがあるため、京大の授業を受けているだけではスピーキングのテストに対応できないため事前の準備をもっとしておくべきだと思った。各クラス7-8人という少人数構成で、大学院生の若い先生が教えてくださった。テストは繁体字・簡体字どちらを用いてもよかったが、授業で使用するテキストはすべて繁体字で書かれているため簡体字で習ってきた私にとってははじめは戸惑いが大きかった。特に、日本語の漢字のうち、繁体字と似ているものを簡体字表記の際に混ぜて用いてしまうということが多々あったのでそこは意識的に気をつけなければならない。結果的にはよく使われる字について繁体字表記でも読めることができるようになり、よかったと感じている。台湾で用いられる中文は、破裂音などがかなり弱い、など大陸のそれとは大きく異なるという印象を受けた。授業は会話中心で進められ、みな均等に話す機会を与えられるため、リスニング・スピーキングの練習に大いに役立った。一方、リーディング・ライティングに関しては授業外の時間に自分で補って勉強しないとレベルアップしたという印象は得られないと思った。また、上のクラスの友人に手伝ってもらい、ホテルのロビーで毎日1時間、5人程度で自主的に行う会話教室に参加した。ここではその日の出来事などを中国語で話し、知らなかった単語を調べ、ノートに書き留めていくことで日常で使う語彙を増やすことができた。全体的には、リスニング・スピーキング能力を伸ばすという目標は達成できたものの、自学自習をもっと行い、中国語を学ぶのに最適な環境にいたことを積極的に生かすべきであったという反省も抱いている。

・進路への影響

今回のプログラムは日本の大学の春休みに合わせて開催されているため、参加者は全員日本人であった。しかし、大学入学まで海外でずっと過ごしてきた帰国子女の友人や台湾人の親をもつハーフの友人なども多くいて自分が当初抱いていた環境とは良い意味で大きく異なるものであった。毎晩ロビーで友人達と遅くまで自分のアイデンティティのこと、将来のこと、国際貢献など多岐にわたるテーマを語り合った時間は本当に貴重で密度の濃い3週間であった。この3週間で受けた刺激や衝撃はまだ自分の中で消化しきれていないので、これから日本でじっくり自分と向き合う時間を作って、今後の進路をもう一度考え直そうと思った。